## 足るを知る

## 年越しの行事とともに自分の心も整えましょう

12月18日(月)に生徒会の代表生徒と地域・PTA の皆さんで門松を作りました。これまで門松づくりの日には、年越しの行事について調べてきましたので、どの学年の生徒も門松の由来やそれを飾る意味を知っていると思います。 新しくやってくる年が良い年になるようにという願いを込め、飾ります。

皆さんのこの I 年はどんな I 年だったでしょう。「悪いことばかり続いて良いことが一つもなかった」と考えている人がいたら…本当にそうでしょうか。自分の置かれている状況に不平や不満ばかり感じてしまい、実は恵まれている環境にいることに気づいていない人はいませんか。

「足るを知る」という言葉には、「人間の欲求や欲望は際限がなくどこまでもわいてくるが、現在の状態は足りているということを知り、現在の自分の状況に満足する。」という意味があります。そこからいま目の前にあるものに対して感謝する気持ちがわくといいます。

門松などを飾る、家の大掃除をするなどして、年越しのしたくを整えたら、次は 自分の心を整える番です。周囲に感謝し、明るい気持ちで新年を迎えましょう。

## 授業時数特例校制度の活用について

本校は文部科学省より授業時数特例校の指定を受け、令和4年度・5年度は一部の教科の授業時数を減じ、代わりに総合的な学習の時間と特別活動の時間数に上乗せして45分授業をベースに教育活動を行ってきました。その結果、週のうち7校時まで授業を行う日が2日ありました。

こうして言葉の力を伸ばす(言語能力の育成)を目指して総合的な学習の時間を中心に2年間取り組んだ結果、生徒に調べたことをまとめる力や発表する力がついたなど一定の成果が得られました。一方で、一単位時間ごとの授業は 45 分で行っているため、書く活動や話す活動に十分な時間をとることができず、深まりが得られないという教職員の反省も上がっています。

これらの成果と課題について校内で検討した結果、 令和6年度からは授業時数特例校制度を活用することをやめ、I単位時間を従来の50分授業に戻して6校 時までの教育活動を行うこととしました。

なお、言葉の力を高める取組など、これまでの総合 的な学習の時間に取り組んできた学習は、時間数は 変わりますが、今後も継続して取り組んでまいります。

## 篠中だより

北九州市立篠崎中学校 校長室通信 第 9 号 校長安部朋惠





地域の方々から 教えていただき、生 徒が門松づくりに 挑戦しました。

今年もたくさんの方々にご協力いただき、立派な門松が完成。篠崎中学校にかかわるすべての皆さんに、佳い新年が訪れますように…と願いを込めて、小学校や市民センターにも飾っていただきました。

